

九州地方整備局における 女性や若手技術者の配置を促す 業務入札方式の試行

国土交通省 九州地方整備局 企画部 技術管理課 課長補佐 たびら ひでき 田平 秀樹

1. はじめに

わが国では、建設投資が過去十数年にわたり急激に減少し、その間、労働力過剰が続いてきたことなどもあり若年入職者が減少し、建設業界は他産業より著しく高齢化が進んでいる状況にある。

このことは、建設関連産業でも同様の傾向であり、生産年齢人口が減少する中で、担い手の確保・育成が深刻な課題となっている。

こうした中、平成 26 年には、公共工事の品質確保の促進に関する法律(以下、「品確法」という)など、いわゆる「担い手 3 法」が改正され、建設業における担い手の確保・育成が重要な柱に位置付けられた。

本稿では、担い手の確保・育成の観点から平成 27 年度より九州地方整備局(以下、「九州地整」という)で取り組んでいる、女性や若手技術者の配置を促す業務入札方式の試行について紹介する。

2. 九州地整での女性・若手技術者の試行経緯

九州地整では、建設業における担い手の確保・育成に向けた取り組みの一環として、技術的に高度でない工事を対象に、平成 24 年度より、若手

技術者評価型を土木系の分任官工事で試行開始するとともに、平成 26 年度からは、女性技術者配置型を分任官工事で試行開始してきた。

一方、業務分野においては、平成 26 年の品確法改正を受けて、九州地区の建設コンサルタント、地質調査業、測量設計業の支部等が抱える課題について意見交換を行う中で、「担い手不足」、「女性・若手技術者の活躍の場の不足」、「魅力ある業界づくり」等の課題が共通認識された。

このため、女性・若手技術者の管理技術者及び担当技術者への登用機会を増やす試行の実施は、技術者に就業意欲を持たせるためにも有効であることから、課題解決に向けて受発注者間で取り組むこととなった。

九州地整では、平成 27 年度より、女性・若手技術者の配置を促す試行業務を開始し、九州地方に働く女性及び若手技術者の登用促進・育成により魅力的な職場環境の創出を促し、担い手の中長期的な育成・確保を図るとともに、技術力向上による成果品の品質確保を図ることを目的として取り組んでいる。

特に、女性技術者は、出産・育児などで休職し、その後復職する機会が多いことから、各年代に広く分布する女性技術者の配置を促す試行に継続的に取り組むことで、良好な職場環境の形成並びに中長期的な担い手確保に資すると考えている。

3. 女性技術者の配置を促す入札契約方式の試行

(1) 九州における女性技術者の現状

九州の女性技術者の現状について、「建設コンサルタンツ協会九州支部」、「全国測量設計業協会連合会九州地区協議会」、「九州地質調査業協会」への平成26年度アンケート結果を以下に示す。

- ・(図-1) 男性技術者に比べ、女性技術者の割合は6%と少ない状況であった。
- ・女性技術者は、各年代に分布し40歳未満は約6割(図-2)であり、専門業種別では、土木コンサルタント(以下、「土木コン」という)43%、測量17%、地質調査4%である(図-3)。
- ・(図-4) 女性技術者のうち管理技術者となりうる資格保有者は、77名(16%)と少なく、管理技術者のみを対象とした試行の拡大は難しい。
- ・九州地整での女性技術者の管理技術者経験者は6%(図-5)、担当技術者経験者は約2割(図-6)と配置が進んでいない。

(2) 九州地整での女性技術者の配置を促す試行

女性技術者の配置を促す試行は、九州地整独自

の取り組みとして総合評価落札方式の一部の業務で、「女性技術者配置型」及び「女性技術者評価型」の2つの方式を試行開始した。

なお、試行対象業務は、女性技術者が比較的多くの実績を有する業務を対象にさらなる業務経験の蓄積と技術力向上による品質確保が可能と判断される分野に限定して試行開始した(表-1)。

表-1 試行対象業務

	女性技術者配置型	女性技術者評価型
河川事業	「河川構造物 詳細設計(樋門・樋管・排水機場等)」、「河川水辺の国勢調査」、「築堤・護岸設計」	
道路事業	「構造物詳細・補修設計(一般)」、「定期点検・緊急点検」、「防災対策設計(詳細設計のみ)」	「防災対策設計(詳細設計のみ)」
測量調査	「航空レーザ測量」、「空中写真測量」及び上記に関連する業務	
地質調査	「ボーリング調査(設計、解析用)」	

① 「女性技術者配置型」の試行概要

- ・「女性技術者配置型」は、担当技術者に女性技術者を配置することを参加資格要件としている。
- ・担当技術者に1名以上の女性技術者を配置した場合にのみ入札参加(指名)資格を与える。

ただし、女性技術者を配置する者の参加がな

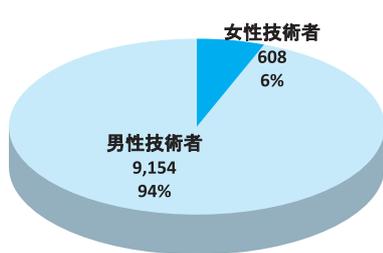


図-1 技術者の男女割合

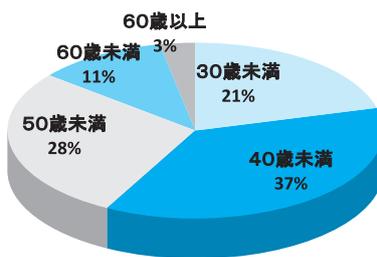


図-2 女性技術者の年齢層

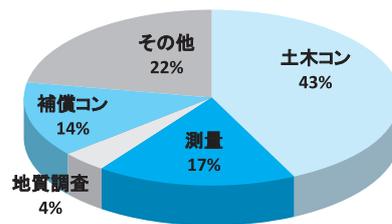


図-3 女性技術者の専門業種

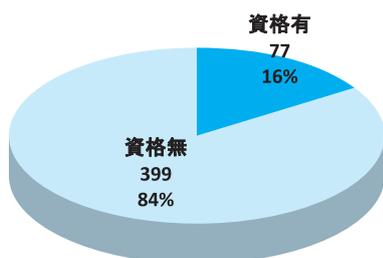


図-4 女性技術者のうち管理技術者となりうる資格保有者

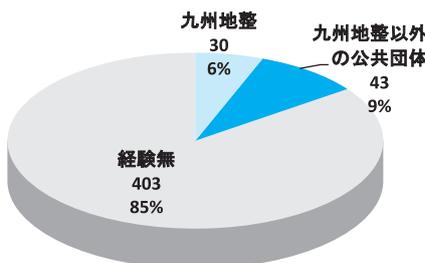


図-5 女性技術者の管理技術者経験者

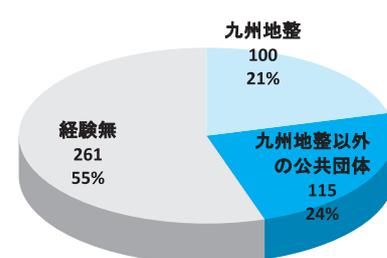


図-6 女性技術者の担当技術者経験者

かった場合、男性技術者を配置する者に入札参加（指名）資格を与える。

- ・業務実績には、通常要件設定としている管理技術者及び担当技術者のほか業務従事者（事務員・CADオペレータを除く）を加える。
- ・女性担当技術者の評価項目のうち業務成績を削除。
- ・ヒアリングを実施する場合、女性技術者を同席可能とし、担当業務のヒアリングを行うが評価対象としない。
- ・業務打合せ時には、やむを得ない場合を除き女性技術者の担当する業務打合せには、同席を必須とする。旅費は、別途計上する。

② 「女性技術者評価型」の試行概要

- ・「女性技術者評価型」は、管理技術者に女性技術者を配置した場合、入札手続きの選定・評価段階で加点評価する。年齢制限は設けない。
- ・管理技術者として男女問わず配置できる者に入札参加（指名）資格を与える。

③ 女性技術者試行業務の共通事項

- ・継続教育（CPD）を必須評価項目とする。
- ・女性技術者の試行業務を受注した場合、その業務の履行期間中は別件の女性試行業務への参加を認めない。ただし、特定または落札決定された時点で、既に競争参加資格通知または選定通知を受けている場合は、この限りではない。
- ・技術提案には、業務内容におけるテーマに加え別途「人材育成及び働きやすい職場環境等の取り組み」を設定することとしている。

④ 女性技術者試行業務の実施状況

「女性技術者配置型」は、平成29年度までの3年間で23業務の試行があり、土木コン関係が20業務、測量が3業務であった。

一方、「女性技術者評価型」は、平成29年度までの3年間で7業務の試行があり、土木コン関係が5業務、地質調査が2業務であった。

業務成績について、各々の試行業務平均と業務全体平均を比較したところ、2つの試行タイプの業務成績とも、通常業務と同程度の成績であった（図-7、8）。

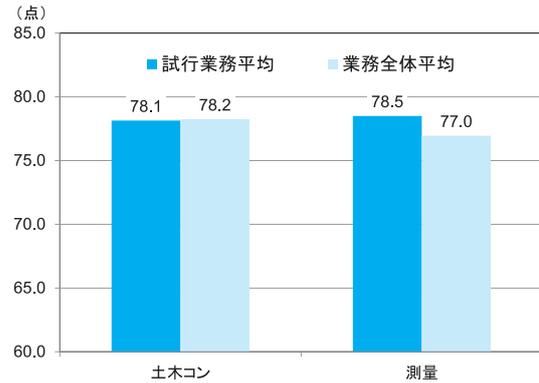


図-7 業務成績比較（女性技術者配置型）

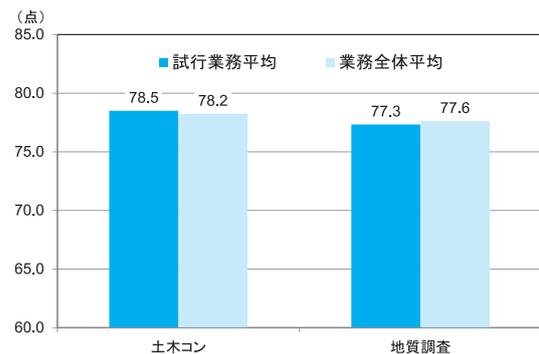


図-8 業務成績比較（女性技術者評価型）

⑤ 女性技術者試行業務のアンケート結果

受発注者及び入札参加者へのアンケートで得られた主な意見及び問題点は、次のとおりであった。

1) 業界及び受注者の意見

- ・女性担当技術者が積極的に業務にあたるべきという社内ムードが醸成され、活躍できる場が増え、やりがいを持ち業務にあたることができた。
- ・試行業務によって、会社としても積極的に女性技術者の採用を進めていくのではないかと期待されている。
- ・女性技術者の活用に対して有効であるが、実施方針と評価テーマの2題が課されるため、通常よりも手間がかかる。
- ・試行業務の対象案件が限られており、今後は発注分野を拡大してほしい。

2) 発注者の意見

- ・女性技術者が、積極的に業務に取り組んでいた。
- ・試行業務だったが、通常業務と変わらなかった。
- ・特別なテーマを設ける必要があるのか。

3) 試行を踏まえた問題点

- ・「総合評価落札方式（標準型）」での試行で、

2つの評価テーマを設定しているため、受発注者双方の負担となっている。

- ・試行の対象業務が限定されており、試行拡大が進んでいない。

(3) 試行内容のカイゼン

アンケート結果から得られた意見や問題点を踏まえ、平成30年度から2つの試行とも見直し、競争参加機会の拡大を図ることとした(図-9)。

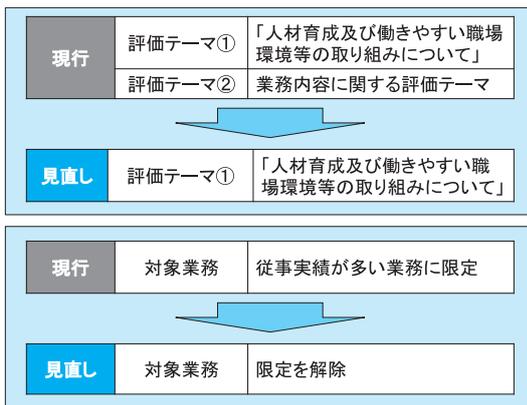


図-9 女性技術者試行業務の見直し

4. 若手技術者の配置を促す入札契約方式の試行

(1) 若手技術者の配置を促す試行方式

若手技術者の配置を促す試行方式は、若手技術者の登用、担い手の中長期的な確保・育成を目的に各地方整備局等(以下、「地整」という)で工夫して試行に取り組んでおり、3つのタイプがある(図-10)。

【タイプⅠ】は、管理技術者に代えて管理補助技術者を評価するもので、4地整で試行中である。

【タイプⅡ】は、若手技術者に配慮した評価項目を設定するもので、資格・実績・成績・表彰等の配点割合を減じて、若手技術者であることを評価するなど、5地整で試行中である。

【タイプⅢ】は、一定年齢以下であることを参加要件に設定するもので、2地整で試行中である。九州地整では、タイプⅢを試行しており、その取り組み状況について紹介する。

(2) 九州地整における若手技術者配置型の試行

九州地整では、若手技術者を配置できる者に入札参加(指名)資格を与える試行を平成27年度より総合評価落札方式で実施している。

① 試行業務の概要

- ・管理技術者かつ担当技術者に若手技術者を配置できる者のみに、入札参加(指名)資格を与える。なお、担当技術者は全数のうち1名以上の配置を要件とする。
- ・若手技術者とは、管理技術者は「40歳未満」、担当技術者は「30歳未満」とし試行を開始したが、試行のなかで、現状の年齢制限では、若手技術者の配置が困難であるとの業界の意見もあり、平成28年度より年齢制限を5歳引き上げ、管理技術者「45歳未満」、担当技術者「35歳未満」を参加資格要件として試行している。
- ・担当技術者の評価項目(業務成績)を削除。
- ・ヒアリングを実施する場合、若手担当技術者を同席可能とし担当業務のヒアリングを実施する

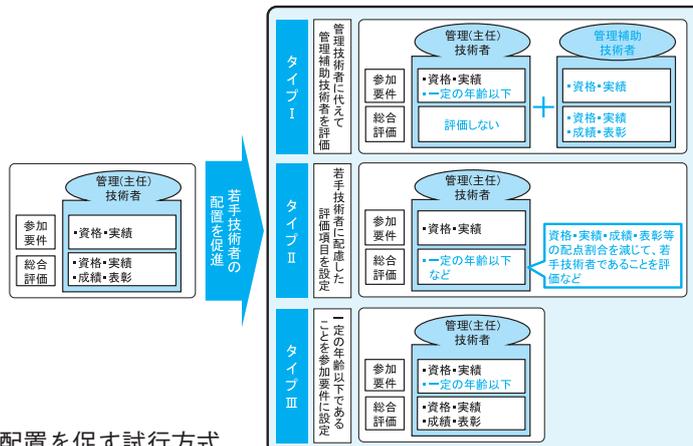


図-10 若手技術者の配置を促す試行方式

が評価の対象としない。

- ・技術提案には、業務内容におけるテーマに加え別途「人材育成及び働きやすい職場環境等の取り組み」を設定することとしている。

② 若手技術者試行業務の実施状況

若手技術者配置型は、平成29年度までの3年間に、19業務の試行があり、土木コン関係が17業務、地質調査が2業務であった。

業務成績について、当該試行業務平均と業務全体平均を比較したところ、試行業務の業務成績は、通常業務と同程度の成績であった（図-11）。

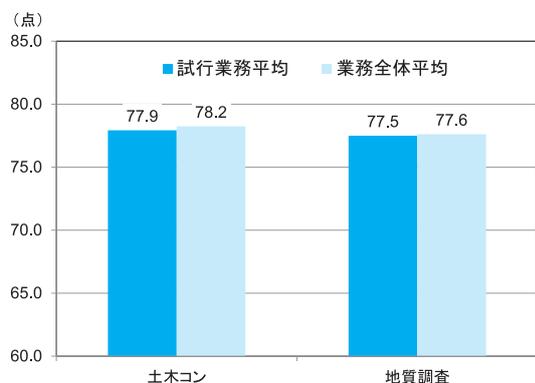


図-11 業務成績比較（若手技術者配置型）

③ 若手技術者試行業務のアンケート結果

試行業務の受発注者及び入札参加者へアンケートを実施し、得られた主な意見及び問題点は、以下のとおりであった。

1) 業界及び受注者の意見

- ・責任感を持って仕事に取り組むことができた。
- ・業務に対するやりがいを感じ、自信もついた。
- ・発注者との窓口、打合せ参加、設計業務の流れ等を経験でき成長につながった。
- ・試行は有効であり、継続した実施が望まれる。
- ・試行業務では、業務分野を適切に判断すべき。

2) 発注者の意見

- ・新たな発想を業務に取り入れていた。
- ・若手技術者を配置できない小企業には不利であるため、参加要件（管理技術者及び担当技術者）は、どちらか一方で良いのではないか。
- ・発注手続きが、煩雑なため簡便にしてほしい。

3) 試行を踏まえた問題点

- ・管理技術者及び担当技術者に、若手技術者の配置を求めているため、若手技術者を多く抱える企業ほど優位となり、競争性確保に配慮が必要な状況である。

- ・総合評価落札方式（標準型）での試行であり、評価テーマ2つは、受発注者双方の負担となっており、負担軽減のため見直しが必要である。

(3) 試行内容のカイゼン

若手技術者試行業務のアンケート結果から得られた意見や問題点を踏まえて、平成30年度から試行内容を図-12のとおりに見直し、競争参加機会の拡大を図ることとした。

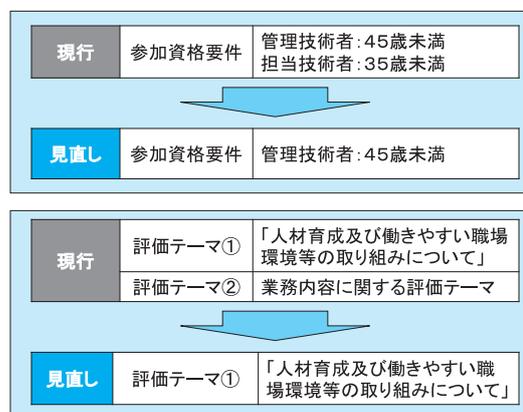


図-12 若手技術者配置型試行内容の見直し

5. おわりに

九州地整では、九州地方に働く女性及び若手技術者の登用促進・育成により魅力的な職場環境の創出を促し、担い手の中長期的な育成・確保を図るとともに、技術力向上による成果品の品質向上を目的として、女性や若手技術者の配置を促す試行業務に取り組んでいる。

引き続き、受発注者等の意見を踏まえながら、女性や若手技術者の活躍の機会の確保に資する試行業務に取り組む必要があると考えている。

今後は、女性・若手技術者に加えて、豊富な経験を有したシニア技術者を考慮した試行業務なども検討していきたい。